

東日本大震災ウォッチャーでアメリカ海兵隊の「トモダチ作戦とその後」について講演がありました。(2013/2/13-15)

場所：東北大学青葉山工学部キャンパス（仙台市）
テーマ：「トモダチ作戦とその後」

3月12（火）に東日本大震災ウォッチャーで、海兵隊太平洋基地政務外交部（G-7）次長のRobert D. Eldridge先生の講演会を開催しました。1月の日本集団災害医学会での特別講演をきっかけに仙台での講演が実現したものです。

2011年3月11日、沖縄に駐留する米国海兵隊は3隻の艦隊を組んでマレーシア沖で災害対応に関する演習中でした。日本での巨大地震と津波発生の報告を受け、現場の指揮官はすぐさま救援に向かう体制を整え、どのルートを通して被災地に向かい、どのような支援が可能かの作戦を立てたそうです。米軍が支援を行うためには日本政府からの要請が必要であり、災害規模はもちろんのこと、それまでに培われた信頼関係により迅速な対応が可能であったとのこと。

海兵隊の特殊性として陸・海・空のすべてを兼ね備えた機動性をもつ軍隊であることが説明され、気仙沼大島が完全に孤立していることを把握した海兵隊は、唯一アクセスの可能な海上からの支援を行ったこと、仙台空港が救援・復興の要所であり、一刻も早い復旧の必要性があることから仙台空港の整備を行ったこと、米軍の保有する医療支援システムなどについて堪能な日本語と、日本を心から愛し第2の故郷とする情熱で語っていただきました。

予測されている東南海地震に対する備えとしてすでに静岡や高知の自治体と米軍が直接の絆を深めていることが紹介され、また、自衛隊との共同行動をとりやすくするための相互交流のとりくみなどが紹介されました。頼もしい隣人としての米軍の行動に感謝するとともに、将来への備えをますます強めなければならないと感じました。



Robert D. Eldridge 先生



トモダチ作戦

文責：江川新一（災害医学研究部門）